

【郡上市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指すまなびの姿

郡上市は、清流長良川の上流に位置し、旧郡上郡の7町村が合併し21年目となる。2022年には、ユネスコ無形文化遺産に民俗芸能「風流踊」として郡上おどりと寒水の掛踊が登録されるなど、歴史と文化、そして美しい自然にあふれた町である。

郡上市では「郡上市小中学校教育の方針と重点」を策定し、めざす姿を「たくましく共に生きる郡上人の育成・生きがいと希望にみちた社会の実現」としている。その重点の1つとして掲げる「確かな学力」を養う授業の改善において、1人1台端末をはじめとするICT環境の整備は、必要不可欠なものであり、特に、下記の点を重点として位置付けている。

- 「しなやかな学び」（個別最適な学び）と「豊かな学び」（協働的な学び）を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の工夫・改善を通して、活用力や自己の可能性を広げる力が身につく授業の充実を図る。（AIドリル、デジタルコンテンツ等の活用も含む）
- 児童生徒が、自ら考えたり、仲間と協働しながら課題解決したりするとともに、学びの楽しさを実感する授業を行い、多様な学び（場所・課題・方法等）に対応するためのICTを活用した実践を行う。
- 生きて働く知識・技能の定着を図るとともに、実践的・体験的な学習を通して思考力・判断力・表現力を育成する。

2. 第1期GIGAスクールの総括

第1期では、これまでの学習活動の中にICTの活用を入れ込み、活用する場面を増やすところから始まった。教職員のICT機器への習熟度の差や、教科による活用の場面の差も当初は見受けられたが、市主催の年4回の教職員向けの研修と、学校単位での研修を積極的に行う事で活用率も向上し、ほぼすべての学校が授業において週3回以上の活用ができるようになってきた。

1人1台端末の活用としては、学習支援ツールを活用して、画像や動画での記録、インターネットでの調べ学習、また、学習ノートを共有することで協働的なまなびの場面も多く見られた。

一方で、児童生徒が自らのまなびをまとめて発表したり、他者と協働的に製作に取り組んだりする場面は、弱さが見られた。

3. 1人1台端末の利活用の方策

- （1）「しなやかな学び」と「豊かな学び」を一体的に充実
 - ・ 学習支援ツールを活用し、他者と協働してまとめたり、考えを深めたりする場を仕組む
- （2）活用力や自己の可能性を広げる力が身につく授業の充実
 - ・ デジタルドリルや学習支援ツールを活用し、児童生徒が自らの学習を認知したり、調整したりできる環境を整える
- （3）多様な学び（場所・課題・方法等）に対応するためのICTを活用
 - ・ オンライン遠隔授業の実施により、学校間の交流、校種間の交流を実施したり、不登校児童生徒の授業参加ができるようにしたりする
- （4）実践的・体験的な学習を通して思考力・判断力・表現力を育成
 - ・ オンライン会議ツールの活用で、学校外の事業所や専門機関との連携を図り、実践的・体験的な学びを充実させる